

[05_03]九州大学大型計算機センター広報表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/1468002>

出版情報：九州大学大型計算機センター広報. 5 (3), 1972-06-27. 九州大学大型計算機センター
バージョン：
権利関係：

所 感

九州大学大型計算機センター長 高 田 勝

九州大学大型計算機センター設立までは、大変な荊の道であったこと皆様御承知の通りであります。大野克郎教授は、この最も困難な時代に、二期にわたりセンター長をつとめられ、今日のセンター運営の軌道を敷かれました。その大きな御功績をたゞえるとともに、並々ならぬ御努力に対し、皆様とともに深く感謝の意を表したいと存じます。

この度そのあとをうけ、四月より私がお引受けすることになりました。

大型計算機センターは、すでに全国7ヶ所にもうけられ、全国共同利用の実をあげておりますが、年々増大する需要に追いつけず、すでに東京大学では記憶容量768KW、CPU4台という極めて大きな規模のものに拡充されることになっています。各センターとも利用者の要望に応えるため、それぞれ設備の拡充計画を検討中のようにありますが、本センターでも将来の利用形態をよく見きわめて進みたいと考えています。

大型計算機センターは、いわば共同の数値実験所あるいはデータ処理場で、利用者各自の計画にしたがって仕事が行われる所と考えます。幸いこの実験所あるいはデータ処理場には、情報を送りこみあるいは取り出す手段さえあれば、利用者センターとの距離の問題はなくなります。このようなところに本センターの将来の姿がありそうに思えます。

現在本センターには1日500～600人の人が出入し、5～6万枚のカードが出入し、また少くとも1～1.5万枚のラインプリンター用紙が出ていると思われます。5～6年前某社の計算センターには1日約3トンの紙がトラックで運びこまれると聞いて、自然を破壊するのは観光事業と計算機ではないかと言ったことがあります。計算機の処理能力が上げれば上がるほど木を伐り倒す必要があるというのでは困ります。計算センターには、特殊入出力の他は、情報のみが有線または無線で出入し、物量は出入しない、いわばほとんど無人の発電所あるいは変電所のような姿になるべきだと思っています。

また、利用者が計画し、その仕事をセンターの機器で実行されるに当っては、ハード的にも、ソフト的にも出来るだけの便宜を供するのがセンターのつとめとなります。特にソフトウェアの貯えはセンターだけでは到底間に合いません。利用者各位の善意に頼る所大なるものがあります。皆様の御支援をお願いする次第です。